染色加工特集

コスト上昇で値上げやむなし

染色業界が存亡の危機

染色業界は、試練のときを迎えている。アベノミクスに伴う円安で、ガス、石油、染料の値上がりが始まり、コストアップに見舞われている。受託加工体質から、発言力が弱く、利幅が削られてきた。小ロット、短納期要求に対応するための経費増加もある。また日本独特の過剰品質要求で手間を取られてもいる。

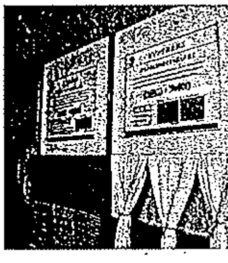
一方「染色加工が日本からなくなってしまうと、我々の活躍の場もなくなる」（産元）との指摘がある。織布工場の減少も激しいが、染色加工場は絶対数が少ないので、1社が廃業することによる影響が大きい。各産地に頼りになる染色工場が数社ずつという形が出ている。そのため、これまでの産地の垣根が崩壊、他産地に出向いての発注が増えてきた。

これ以上の染色業界の衰亡は産地の崩壊を招くとの指摘もある。

「エネルギーコストアップなどがあり、染色工賃の値上げはやむをえない」との声も出てきた。メードイン・ジャパンが見直される機運も出ている昨今、染色工賃の改定も含めて持続可能な繊維業界の構築が求められる。

飯田織工

効率アップに尽力



提案力を磨いてきた

飯田織工（大阪市東淀川区）は、急激な為替相場の円安化を背景に、ガス、電気などエネルギー経費が上昇したことから染色料金の値上げを取引先各社に要請している。

昨年までにすでに染料や薬剤が大きく値上がりした。それに続いて円安が拍車をかけてガスや電気料金の値上げが始まった。材料費は使い方を工夫して、値上がりの影響を和らげてきた。しかし、ガスや電気の値上げは染色コストに直接響いてくる。ガス使用については、ボイラー5台を入れ替えて効率を良くする工夫も加えた。しかし、それでもエネルギー経費の上昇は厳しい。

同社の2012年9月期売上高は15億円。従業員100人、40台の染色機を稼働して、[illegible]50～170㌢の短繊維ニットを染色加工している。

2010年7月には、顧客満足度の原点は品質管理マネジメントシステムにあるとの思いから、ISO9001を取得。また11年には、プレゼンテーションスペース「コットンクラブ」を改修。ここで繰り広げられる活発な意見交換から、いち早く世の中のニーズを取り入れた画期的な新商品を誕生させている。

大阪染工

るが、長期的な視野に立ち、ビニロンなどを使った非衣料分野も深索す

｜28台に更新するなど、コスト削減のための投資も行っている。

平松産業

「無孔透湿」で新素材

平松産業（石川県能美市）は、ポリウレタンの無孔高透湿・薄膜フィルムの進化版を開発、14秋冬物から市場に投入する。国内向けで受託加工を行うほか、中国、韓国、台湾を中心に独自に輸出販売にも乗り出す。

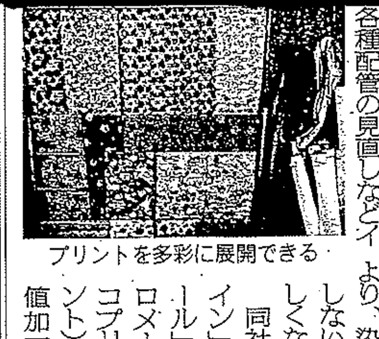
新素材は「ルストレSGX－β」で、ポリウレタン無孔フィルム「ルストレSGX」の進化版に位置づける。新素材は従来品に比べ、透湿性能を2倍に向上させるとともに、よりソフトな風合いを実現した。基布はナイロン、ポリエステル、ポリエステル綿混など長・短繊維を問わず、織物でもニットでも張り合わせが可能という。

中国市場対応では台湾資本のPTFE（ポリテトラフロロエチレン）加工メーカー、昱天（サンゴッド）〈上海〉新材料などと合弁で香港に新会社を設立、その香港新会社がこのほど上海に「竹天〈上海〉貿易」を設けた。

新会社は同フィルム素材をはじめとした平松産業の高機能素材を販売する。5月の連休明けにはラミネートの設備を新会社に移設する予定。韓国、台湾でも協力関係にある現地代理店を通じて市場を拡大する。

日出染業

多彩な加工機を保有



プリントを多彩に展開できる

日出染業（和歌山市）は、コスト削減のため工場内の空調設備の改良や各種配管の見直しなどインフラ改良をしてきた。しかし、それでも昨今のエネルギーコスト上昇により、染色工賃を値上げしないと工場運営が難しくなる。

同社は「アミノファイン」（保湿）、「カフナール」（花粉除去）、「アロメート」（芳香）、「エコプリ」（環境配慮プリント）など各種付加価値加工も準備している。従業員160人。月産でプリント180万～200万㍍、無地30万～50万㍍で合計230万㍍程度を生産する。プリントはフラットスクリーン・プリント機5台、ロータリー・プリント機1台でプリントする。無地染めでも連続染色機、液流染色機、コールドバッチ機など3種類の手法を保有する。前処理も4種類持つ。後加工はさらに多様だ。これらの加工手法を駆使することで、顧客ニーズに合うテキスタイルを生

山陽染工

インディゴ

インディゴを使い特徴

山陽染工（広島県福山市）は、生地のインディ

エネルギー事情と染色

資源エネルギー庁によると、世界のエネルギー消費量（1次エネルギー）は経済成長とともに増加を続けていて、1965

（OECD諸国）では伸び率が低く、開発途上国（非OECD諸国）では高い。これは先進地域では、経済成長率、人口増

量にエネルギーを使う。織布工場であれば、織機を動かす電気は必要であるが、温めたり、乾燥させたりというエネルギーはほとんど使わないで済

に増加している。とくに経済成長の著しいアジア太平洋地域は、世界のエ